

2027年3月期第1四半期 業績概要

杉田 俊一

アンリツ株式会社
取締役 専務執行役員 CFO

2026年7月30日



東証 プライム
証券コード：6754
<https://www.anritsu.com>

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、新たな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目 次

1. 事業概要
2. 2027年3月期第1四半期 連結決算概要
3. 2027年3月期 通期業績予想（連結）
4. 当社の取り組みについて

1. 事業概要

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展

- ◆ ネットワーク・インフラ市場
：データセンター、光/無線NW
- ◆ モバイル市場：5G/6G、5G利活用
- ◆ エレクトロニクス市場：電子部品、無線設備、研究開発



PQA事業

食と医薬品の安全・安心

- ◆ 食品検査市場
- ◆ 医薬品検査市場



環境計測事業

脱炭素社会を目指して

- ◆ EV/電池市場
- ◆ 社会インフラIT市場



その他



- ◆ センシング & デバイス
- ◆ その他

(セグメント別売上比率)

2026年3月期 実績（連結）：1,175億円

通信計測 59%			PQA 26%	環境計測 9%	その他 6%
ネットワーク・インフラ 39%	モバイル 38%	エレクトロニクス 23%			

2027年3月期 1Q実績（連結）：326億円

通信計測 60%			PQA 24%	環境計測 11%	その他 5%
ネットワーク・インフラ 50%	モバイル 30%	エレクトロニクス 20%			

(通信計測事業 地域別売上比率)

2026年3月期 実績

日本 17%	アジア他 36%	米州 28%	EMEA 19%
--------	----------	--------	----------

2027年3月期 1Q 実績

日本 12%	アジア他 46%	米州 25%	EMEA 17%
--------	----------	--------	----------

2-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比 増収増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	当第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	252	491	239	95%
売上高	236	326	90	38%
営業利益	13	43	30	219%
税引前利益	14	46	32	243%
当期利益	6	33	27	463%
当期包括利益	2	43	41	-

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

2-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 前年同期比で、通信計測、PQA、環境計測で増収増益

(単位：億円)

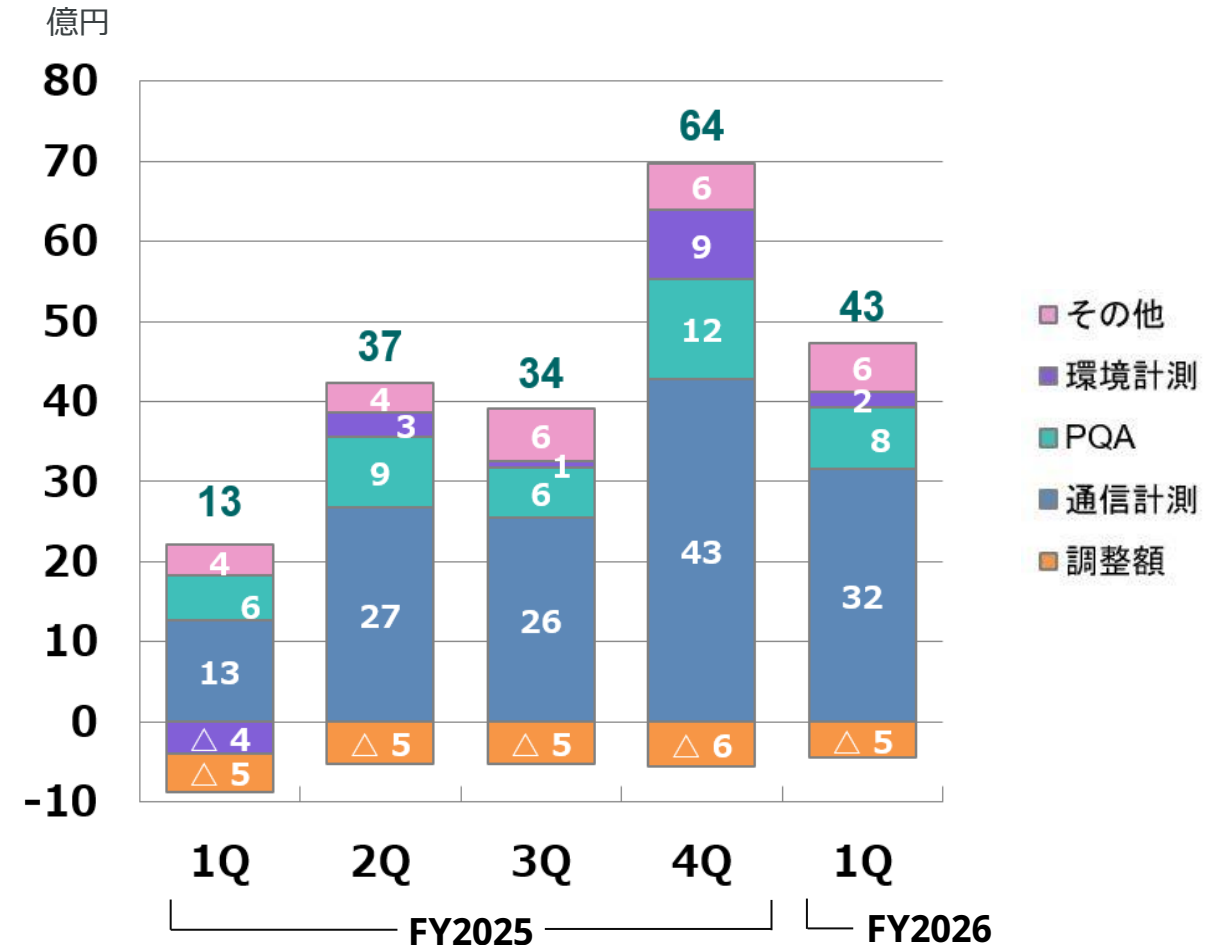
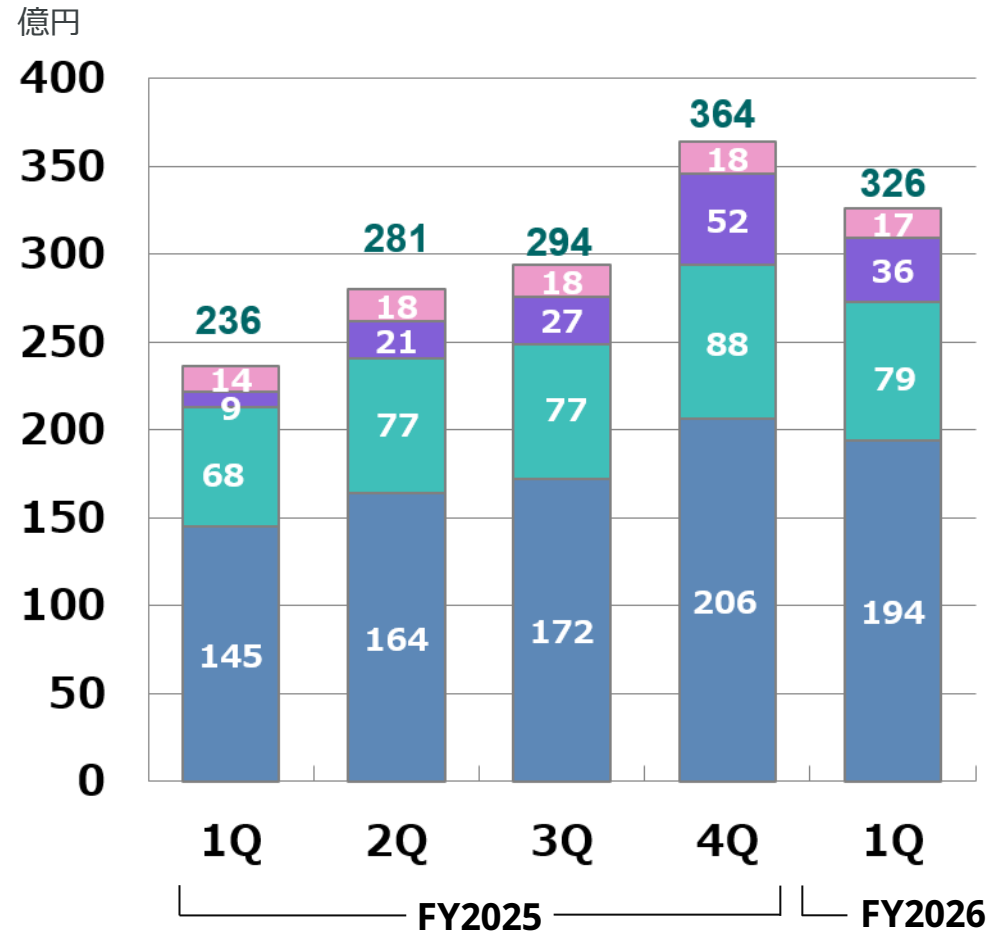
国際会計基準(IFRS)		前第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	当第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	145	194	49	34%
	営業利益	13	32	19	149%
PQA	売上高	68	79	11	16%
	営業利益	6	8	2	36%
環境計測	売上高	9	36	27	323%
	営業利益	△ 4	2	6	-
その他	売上高	14	17	3	18%
	営業利益	4	6	2	61%
調整額	営業利益	△ 5	△ 5	0	-
合計	売上高	236	326	90	38%
	営業利益	13	43	30	219%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

2-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 1Q(4-6月)営業利益率：通信計測 16.3%、PQA 9.8%、環境計測 5.5%



(注) 値はそれぞれで四捨五入

セグメント 2027年3月期（4-6月）の状況

➡ 通信計測：データセンター関連を中心に需要は好調

ネットワークインフラ	生成AI用のデータセンターの構築・高速化が加速 光海底ケーブルの敷設が増加傾向
------------	--

モバイル	5G開発市場の投資は低調 5G利活用市場では自動車やNTN、Wi-Fi 7の需要が継続
------	--

エレクトロニクス	ANS*関連の需要が北米と日本で継続 PCIeの研究開発需要が引き続き好調	*ANS(エアロスペース&ナショナルセキュリティ)
----------	--	---------------------------

アジア他・日本	データセンター市場の顧客の投資は好調 5Gスマホ開発市場の投資停滞
---------	--------------------------------------

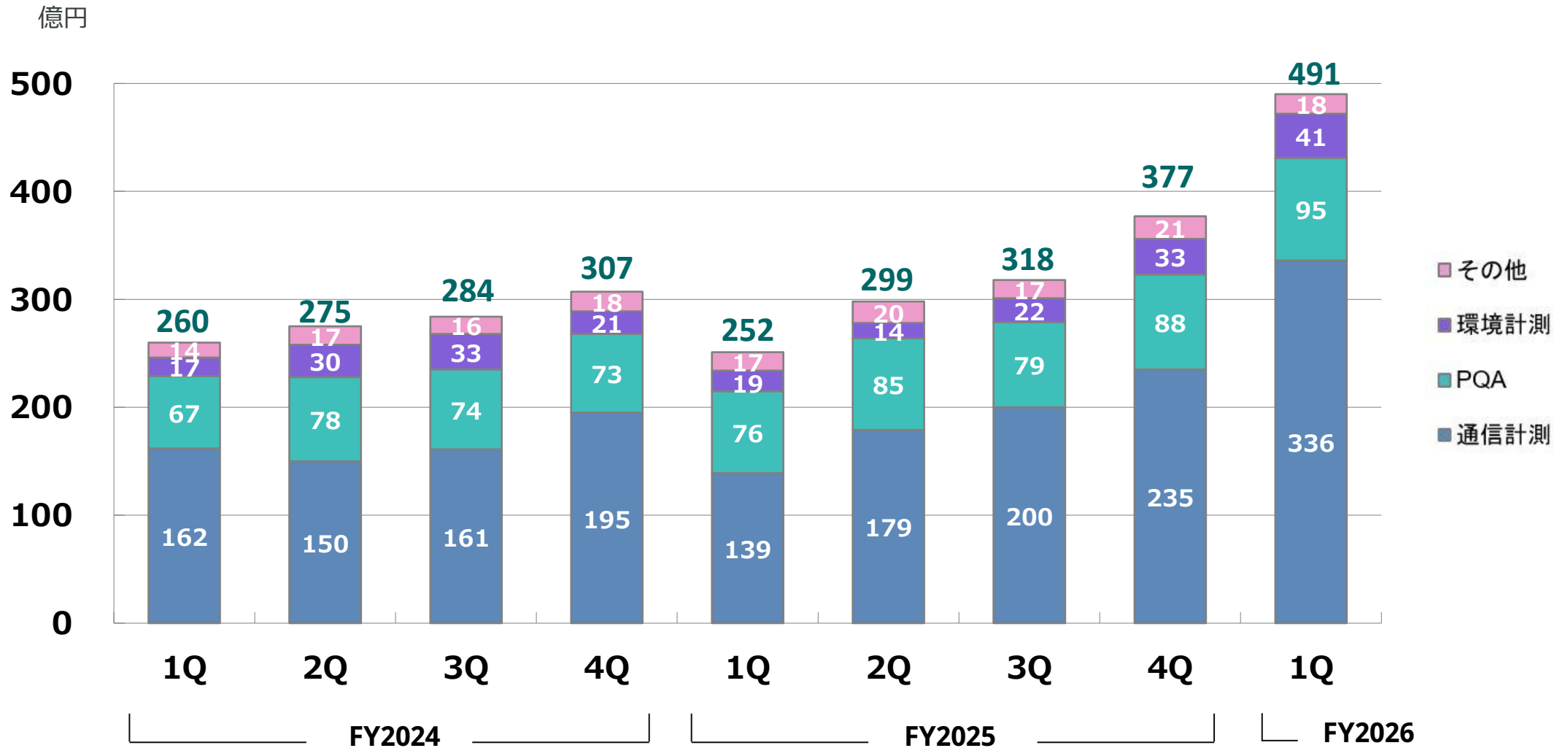
米州	データセンター市場の顧客の投資は好調
----	--------------------

➡ PQA：全地域で好調。特に北米地域で食肉市場を中心にX線検査需要が好調

➡ 環境計測：EV/電池向け試験装置需要は調整局面
データ収集システムの需要は堅調

2-5. 受注高推移

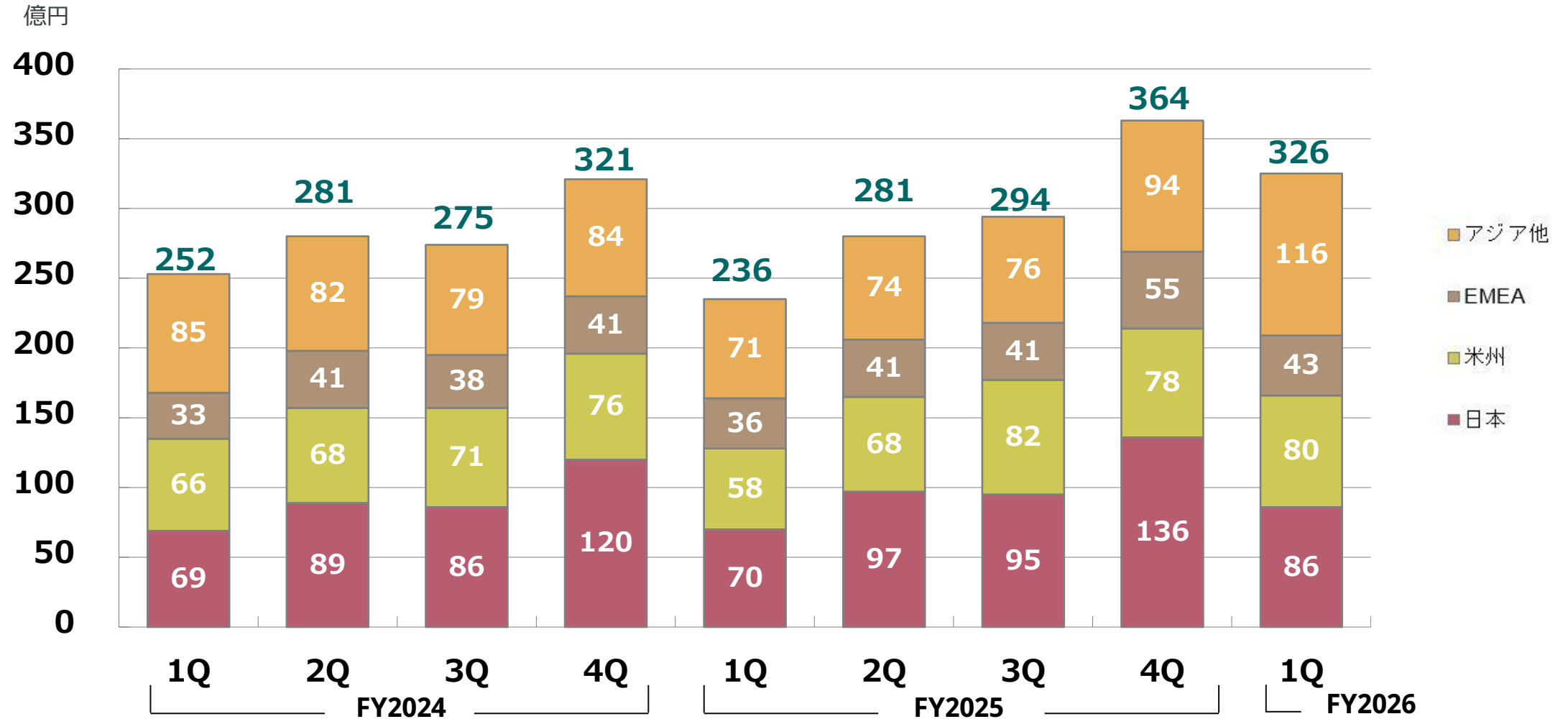
▶ 1Q(4-6月)受注高：前年同期比 通信計測 142%増、PQA 24%増、環境計測 118%増



(注) 値はそれぞれで四捨五入

2-6. 地域別売上高推移

▶ 全地域で増収



(注) 値はそれぞれで四捨五入

2-7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率 20.0%

FY2026(4月～6月)

①営業CF： 65億円

②投資CF： △14億円

③財務CF： △42億円

フリーキャッシュフロー

(①+②)： 51億円

現金同等物期末残高

509億円

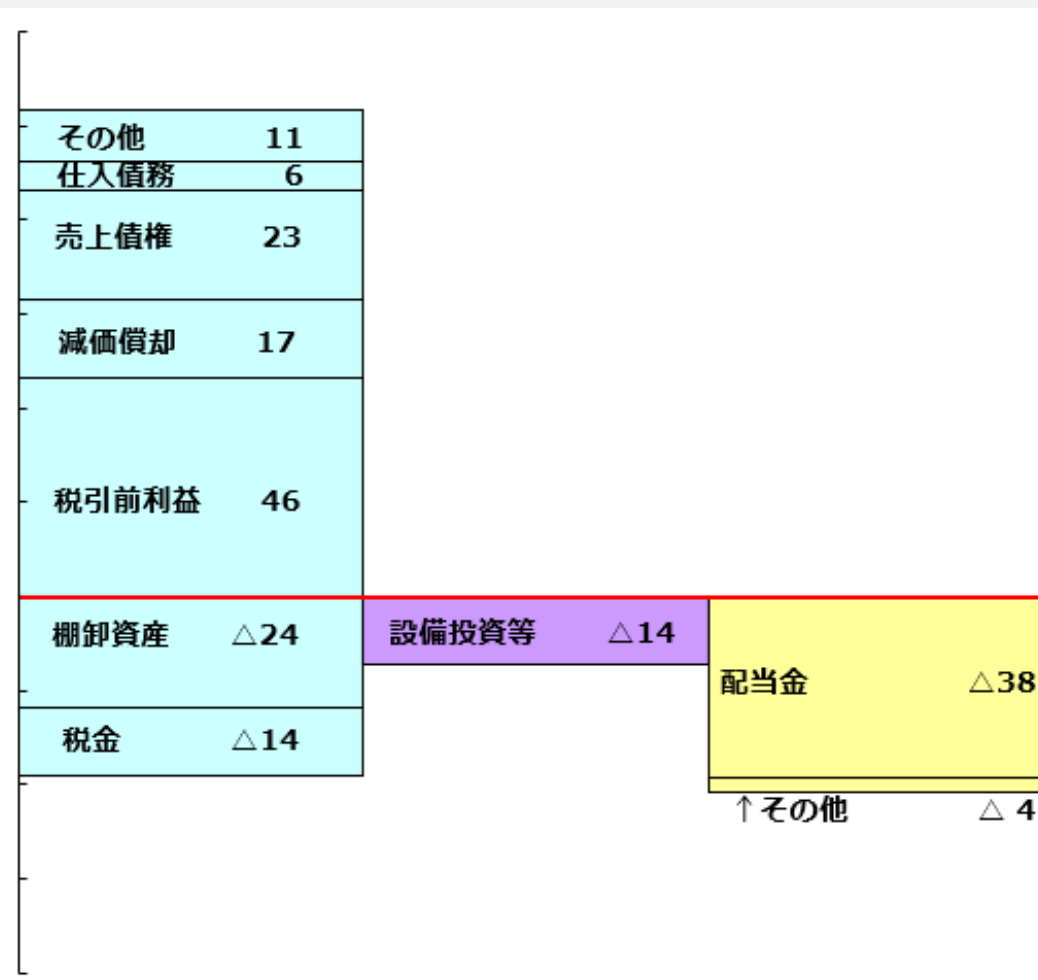
有利子負債高

73億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

内訳

(単位：億円)



営業CF 65

投資CF △14

財務CF △42

3. 2027年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 4月27日公表値から変更なし

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)			2026/3期	2027/3期	
			前期実績	通期予想	前年同期比 増減額 前年同期比 増減率(%)
売上高			1,175	1,400	225 19%
営業利益			148	200	52 35%
税引前利益			161	200	39 24%
当期利益			117	150	33 28%
通信計測	売上高		688	850	162 24%
	営業利益		108	165	57 53%
PQA	売上高		310	330	20 6%
	営業利益		33	40	7 21%
環境計測	売上高		108	160	52 48%
	営業利益		9	10	1 18%
その他	売上高		69	60	△ 9 △ 13%
	営業利益		20	15	△ 5 △ 24%
調整額	営業利益		△ 21	△ 30	△ 9 -

（参考） FY25 為替レート
FY26 想定為替レート

： 1米ドル151円、1ユーロ175円
： 1米ドル150円、1ユーロ175円

（注） 値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

4.当社の取り組みについて

濱田 宏一

アンリツ株式会社
代表取締役 社長

4-1. 通信計測市場トレンドと事業機会

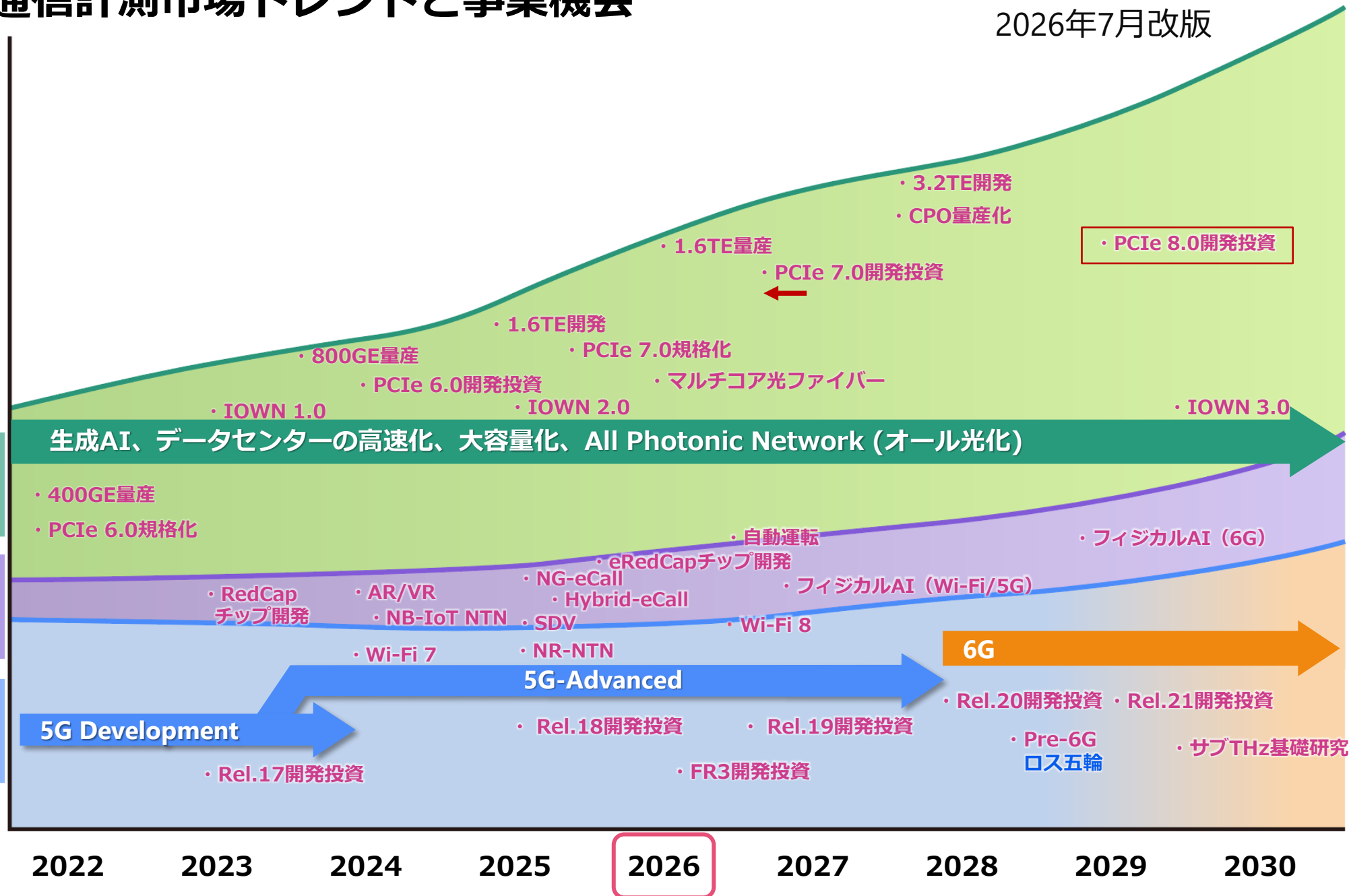
2026年7月改版

市場規模

Wireline
Market

5G/6G
Utilization
Market

Mobile
Market



4-2. 製品紹介：次世代VNA（Tensor Vector Network Analyzer）

AI搭載 次世代VNA

高い基本性能とAIにより、測定の複雑化、高速化、高精度化の課題に応える

2026年6月に米国で開催されたIMS2026※で発表
※IMS2026: IEEE MTT-S International Microwave Symposium2026

10月販売開始予定

■ 特徴

・内蔵AIエンジン

AIによる提案機能により、複雑な測定を簡単かつ直観的に実施可能
自然言語での対話で、開発・評価業務の効率化を支援

・全ポートに独立した信号源を標準搭載

4ポートVNAでは4つの信号源を備え、同一セットアップで複数の測定に対応

・高周波・ミリ波対応と拡張性に優れた構成

54 GHzから220 GHzまでの高周波数帯に対応
さらにサードパーティベンダーの導波管ソリューションと組み合わせることで、
最大1.1 THzまでの測定に対応

■ 対象市場

- ・ANS（エアロスペース&ナショナルセキュリティ）
- ・高周波半導体デバイス
- ・研究機関 など



4-3. 製品紹介：サーバー内高速化のための開発向けソリューション

サーバー内通信の高速化に向けて、PCIe Gen7（PCIe 7.0）に対応

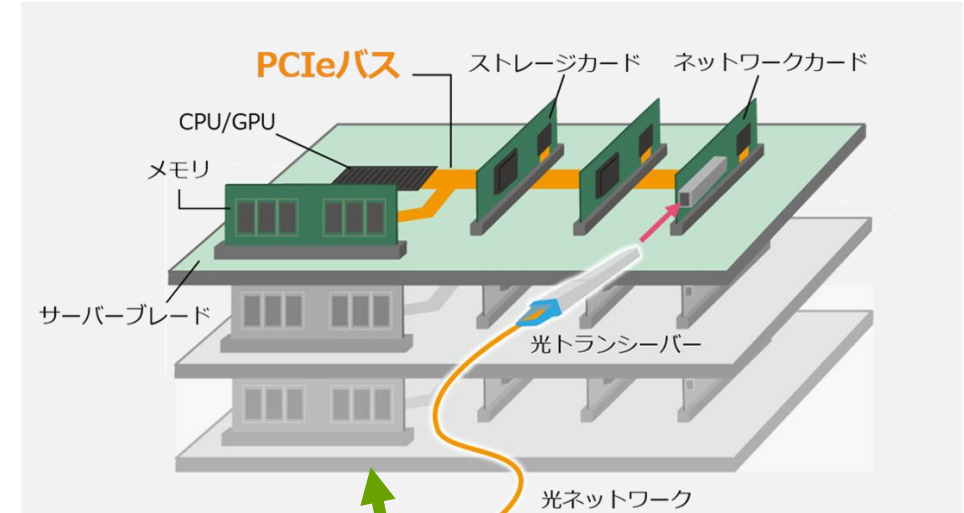
800GEから1.6TEへとサーバー間の光ネットワークの高速化が進展している。
これに伴い、サーバーブレード上のCPU/GPU、メモリ、各種モジュール間の高速通信用に
PCIe Gen7対応が進められている。

■ 測定用途

128GT/sのデータ誤り率と波形品質の評価に使用

■ 対象顧客

- GPU/CPUメーカー
- 高速インターコネクト関連メーカー（PCIeカード、コネクタ等）
- ネットワーク機器メーカー



データセンター

出典：Explore our photo gallery - Google Data Centersより
<https://www.google.com/about/datacenters/gallery/>

4-4. 製品紹介：X線検査機 AI機能拡充オプション

従来のX線検査技術にAI技術を組み合わせることで、検査精度を向上

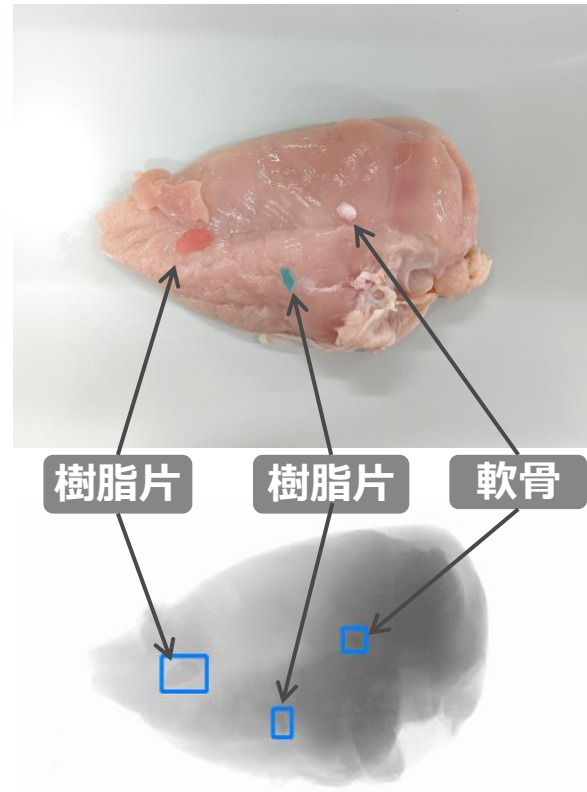
お客様の現場で学習するAI機能オプションをラインナップ。生産現場特有の不良品パターンを現場で学習することで検出精度を向上します。誤検出を低減し生産ラインの歩留りの向上に貢献します。



X線検査機 XR76シリーズ

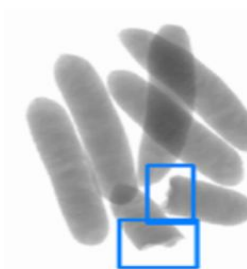
■ 異物検査

軟骨や樹脂片などの検出精度が向上

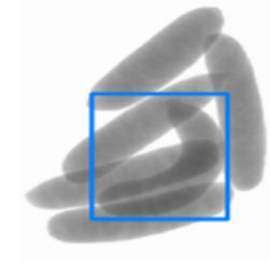


■ 形状不良検査

ソーセージの折れや曲がりを検査



折れ検出



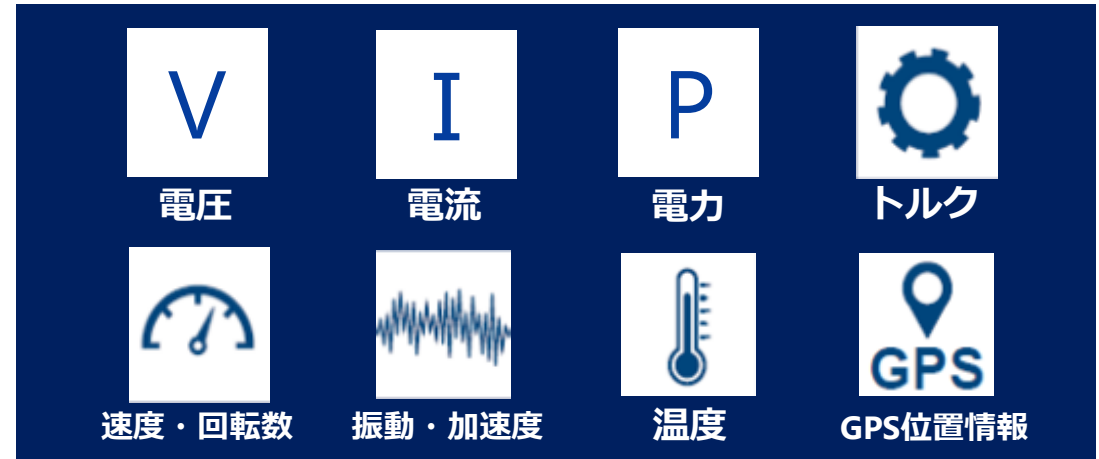
曲がり検出

4-5. 製品紹介：多様な信号を同時に測定・解析するデータ収集システム

電圧・電流・温度・振動・ひずみなど、多様な信号を同時に測定、解析



対応信号の一例



■ 特徴

- 多様な信号を同時に測定・解析し、複雑な事象の因果関係を解明
- 用途に応じた柔軟なシステム構成が可能

■ 対象市場

- ANS
- 自動車
- 再生可能エネルギー



NASA Artemis II 計画への貢献

4-6. サステナビリティ目標の状況

	KPI	GLP2026の目標	2025年度実績	進捗
E 環境	● 温室効果ガス (Scope1+2)	2021年度比 23%以上削減 ・ 2030年度目標：2021年度比42%削減	31.0%削減	◎
	● 温室効果ガス (Scope3)	2019年度比 17.5%以上削減 ・ 2030年度目標：2019年度比27.5%削減	26.6%削減（参考値） *2	◎
	● 自家発電比率(PGRE 30) *1	14%以上（2018年度電力消費量を基準） ・ 2030年度目標：30%程度まで高める	12.9%（参考値） *3	○
S 社会	● 女性の活躍推進	女性管理職比率15%以上	13.5%（グローバル、2026年4月1日）	○
	● 障がい者雇用促進	職域開発による法定雇用率2.7%達成	障がい者雇用率2.8%（2026年3月末）	◎
	● 働きがいのある労働環境の実現	エンゲージメント調査の働きがいポジティブ回答率：80%以上	74.5%	○
	● サプライチェーンDDの強化	10社/年以上	12社実施	◎
	● CSR調達に係るサプライヤへの情報発信3回/年以上、教育2回/年以上		情報発信3回、教育1回実施	○
G ガバナンス	● 取締役会の多様性の推進	女性取締役比率20%以上	22%（2026年6月25日以降）	◎
	● 取締役会における重要経営課題の集中討議	6回/年	6回実施	◎

*1 PGREは、Private Generation of Renewable Energy（再エネ自家発電）の略であり、「30」は達成時期の2030年ごろと自家発電比率目標値30%程度を意味します。

*2 第三者検証前のため、参考値として記載しています。

*3 Anritsu Company（米国）に設置している太陽光発電設備のメーカーの倒産により、発電量が3ヶ月間モニタリングできていなかったため、この間の発電量が推計値となり、第三者保証を得られず参考値として記載しています。

